
編集後記

機関誌第9号を発行する運びとなった。昨年度から本機関誌は年度2回発行体制となり、質・量両面の確保という高いハードルに挑戦しているが、質を確保するための厳正な審査と、量を確保するための査読期間の短縮化をレフェリー、編集委員他関係者の皆様の多大なるご協力によりクリアすることができた。心より御礼申し上げたい。

今回、採用となった論文は「健康保険組合における老人医療費の負担指標に関する研究」(馬場園 明氏)、「医療供給政策における政策過程の変容—厚生技官の台頭と政策コミュニティの形成—」(中島 明彦氏)、「訪問看護における職務満足と顧客満足の多軸的な関連」(徳永 淳也氏)の3本である。馬場園 明氏には本機関誌第7号掲載の論文「健康保険組合における老人保健拠出金の現状」(安部 由起子氏)の検討も含めた論文のご執筆を編集委員会より依頼した経緯がある。また、徳永 淳也氏は平成11年度医療経済研究機構研究助成対象者であり、本作品はその成果論文である。3本ともレフェリー、編集委員会による厳正な審査を経て採用に至った作品であり、今後の医療政策議論の参考文献としてお役に立つことができるものとする。

研究報告では、医療経済研究機構が行った代表的プロジェクトを論文形式にまとめて報告しているが、第9号は「内科系医療技術の評価手法に関する研究」を発表した。論文執筆は、この研究会の座長を勤められた学習院大学経済学部の遠藤 久夫教授である。老人医療費をはじめとする医療費の適正化を主眼に置いた制度改革議論の中で、診療報酬体系における技術料評価のあり方を検討する基礎データを得るための研究として議論の礎となりうる秀作である。ご執筆の労をおとり頂いた遠藤教授に感謝を申し上げたい。

尚、編集委員長、編集事務局代表として創刊以来約7年に亘って本機関誌編集に携わって来られた医療経済研究機構専務理事の上條 俊昭氏が本年3月をもって退任される。上條氏が築き上げた編集システムや本機関誌に対する熱意を絶やすことなく継続させ、今後もより良い機関誌の編集に邁進したいと考える。各方面のご支援とご協力を心よりお願いする次第である。

(編集事務局 広森伸康)
